

# ブラック批判対処、ワタミが初の労組 従業員大半1.3万人加入

[SankeiBiz](#) 6月18日(土)8時15分配信

居酒屋チェーン大手のワタミが、1984年の創業以来初めて労働組合を結成したことが17日、分かった。組合員数は、グループの正社員とアルバイト・パート従業員の大半に当たる約1万3000人。組合と経営陣が対話する場を設けることで、職場環境の改善をアピールする狙いがある。

同社によると、組合の名称は「ワタミメンバーズアライアンス」。流通やサービス業の労働組合でつくる産業別労組「UAゼンセン」の支援を受け、5月16日に結成大会を開き、正式に結成した。

同社では、2008年に元社員が過労が原因で自殺して、当時の社長や同社などが訴えられる（昨年12月に和解）など、企業体質や労務管理に批判が集中した。これまでは、社員アンケートなどで労務状況を把握してきたが、「ブラック企業」批判に対処するため、組合の結成が必要と判断した。

【関連記事】

最終更新:6月18日(土)8時15分

**SankeiBiz**

## 「ブラック企業」と批判されたワタミに労働組合ができた

朝日新聞デジタル | 執筆者：北川慧一

投稿日:2016年06月17日 09時30分 JST 更新:2016年06月17日 09時31分 JST

ワタミに初の労働組合 「ブラック」批判受け

居酒屋チェーン大手のワタミで初めて労働組合が結成された。グループの正社員約2千人と、アルバイト約1万5千人の大半が入った。流通、繊維業界の労組を束ねるUAゼンセンが支援し、1月から結成の動きが進んでいた。ワタミによると、1984年の創業以来、企業別労組はなかったという。

5月16日、労組「ワタミメンバーズアライアンス」（組合員数約1万3千人）が結成され、入社すると同労組に加入することになる「ユニオンショップ協定」を労使で結んだ。

同社の経営陣はこれまで、「社員は家族だ」といった経営理念から労組に否定的だったが、長時間労働などで「ブラック企業」と批判され、業績も悪化。労務管理を見直してきた。ワタミでは2008年に新入社員が過労自殺し、当時の代表取締役や同社が訴えられ（昨年12月和解）、企業体質への批判が集まった。客離れで業績も悪化する中、「批判にきちんとした対応が必要になり、色々な取り組みをするなかで、（社内に労組をつくる雰囲気も）醸成されてきたと思う」（塚田武・執行役員）という。

これまでは社員アンケートで労務状況を把握してきたが、労組結成により、組合員の声が直接届くことに期待しているという。（北川慧一）

（朝日新聞デジタル 2016年6月16日 17時40分）